

あかびらの 今と昔

今と昔のあかびらでは、どのように変化をしているのでしょうか。ここでは、昔の懐かしいイベントや風景、建物などを紹介していきます。

市役所(役場)庁舎



赤平村役場(後の赤平町役場)

今回は市役所(役場)庁舎にまつわる昔話です。

大正11年4月、歌志内村から分かれて「赤平村」が誕生しました。開村当初は個人所有の建物を庁舎としていましたが、同年8月に「赤平村役場」が完成しました。昭和18年の町制施行によって「赤平町役場」に名前が変わります。戦中・戦後の時代に赤平の基盤づくりを担ってきた役場でしたが、昭和25年11月、火災によって焼失してしまいました。仮庁舎を経て昭和27年9月に新たな町役場が完成。この年は開村から30周年にあたり、記念式典と庁舎の落成式があわせて行われました。昭和29年7月の



昭和27年新築当時の町役場(初代・市役所)

市制施行で初代「赤平市役所」になり、昭和56年に現在の市庁舎が完成するまで、炭鉱のまちの発展を見守ってきました。昭和56年10月号の広報には、取り壊される初代市庁舎について、「旧庁舎での記念撮影はお早めどうぞ」との案内がありました。記念に残したいほど、市民に親しまれた庁舎だったということでしょうね。

2代目市役所となる今の庁舎は、現在、耐震化工事が行われています。災害時の安全・安心だけではなく、日常の市民生活を支える拠点として、今の市役所も皆さんに親しんでいただける場所であらばと思います。



写真のマネキンは、全国鉱山保安週間のときに、実際に使われていたものです

今年4月から地域おこし協力隊員として着任し、炭鉱遺産の保存・活用業務に携わっている大藤寛之です。現在、赤平市炭鉱遺産ガイダンス施設にて、今月中旬の開館に向けて準備を行っております。

ガイダンス施設では、炭鉱歴史資料館から移設した資料を見ることができます。私がぜひ見てもらいたい資料は、炭鉱で災害が発生したときに救護隊が使用していた酸素呼吸器です。自分が吐いた息に含まれる酸素を再利用できる機能が付いていて驚きました。

旧住友赤平炭鉱立坑・自走榨工場などのガイド付き見学を行いますので、ガイダンス施設がオープンしましたら、ぜひいらしてください！

地域おこし協力隊 大藤

地域おこし協力隊通信

